

スマートシティの実現に向けた技術提案書

公表年月日: 2023 年 11 月 17 日

提案団体名: TOPPANデジタル株式会社

○提案内容

(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください	
技術の概要・実績等	技術の分野
<p>1.食農業の需給マッチングプラットフォーム「ジモノミッケ!®」 地域内における生産者と実需者(宿泊施設や介護施設、飲食店など地域の顧客)を専用のアプリ上でつなぎ、生産情報と需要情報をマッチングするプラットフォーム。地域内の需給を可視化するほか、取引結果や市況情報等のデータのビジュアル化や、AIルーティング計算や温度・トレーサビリティ管理のデジタル化により、中間流通の効率化・最適化にもつなげることができる。</p> <p>【実績】 ・農産物の需給マッチングプラットフォームが会津若松市のスマートシティ推進事業に採用 https://www.holdings.toppan.com/ja/news/2022/10/newsrelease221011_1.html ・南阿蘇村にて農産物の地産地消を支援する需給マッチングプラットフォームの実証実験を開始 https://www.holdings.toppan.com/ja/news/2023/08/newsrelease230825_1.html</p>	(6):(1)～(5)を活用した新たな応用技術
<p>2.自治体ポータルサービス「クラシラセル®」 自治体アプリを起点とした生活DXによって地域をアップデートするASP型ポータルサービス。“私”のための自治体ポータルサービスで自治体情報DXを実現し、住民の生活DXを通じて地域全体のアップデートを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民ユーザーが登録した情報に応じて、行政から配信するお知らせを出し分けることが可能。 ・外部サイト/アプリへ遷移できるサービス一覧機能を持つ。 ・マップや選択回答式ナビ等の機能を有しており、職員操作のサイトからいつでも情報の更新が可能。 ・住民ユーザーの利用状況をログとして出力できるため、データ利活用が可能。 ・データ連携基盤との接続実績有り。 <p>【実績】 ・つくばスマートシティアプリ「つくスマ」配信開始 https://www.holdings.toppan.com/ja/news/2022/04/newsrelease220411_1.html</p>	(4):データプラットフォーム
<p>3.IoT向け次世代LPWA通信「ZETA」 IoT向け次世代LPWA「ZETA」は超狭帯域による多チャンネル通信/メッシュネットワークによる広域での分散アクセス/双方向での低消費電力通信を実現する通信方式。「ZETA」を用いることにより、山間部・トンネル・地下などに通信エリアを拡大することができる。 「ZETA」を用いたスマートシティ・自治体DX向けソリューションとして、①遠隔ワナ監視システム「リモワナ」、②リモート水位センシングシステム「スイミール」がある。</p> <p>【参考HP】 ①遠隔ワナ監視システム「リモワナ」: https://solution.toppan.co.jp/toppan-digital/service/remowarna.html ②リモート水位センシングシステム「スイミール」: https://solution.toppan.co.jp/toppan-</p>	(1):通信ネットワーク技術とセンシング技術、 (6):(1)～(5)を活用した新たな応用技術

(2)(1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ
 ※課題については、別紙の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>1.食農業の需給マッチングプラットフォーム「ジモノミッケ！」 【生産者の所得向上】 地産地消を優先した流通網の構築により、中間流通が効率化・最適化される上、こだわりの農産物を新鮮なまま適正価格で販売可能となる。</p> <p>【実需者への送客効果】 生産者こだわりの地元農産物を新鮮かつ安価に取り扱うことができ、自社の地産地消の取り組みを訴求できる。</p> <p>【地域経済の循環促進】 地産地消の促進により、地域内での農産物流通が活性化する。</p>	(コ)、(シ)
<p>2.自治体ポータルサービス「クラシラセル」 【住民に情報が届いていない】 ホームページでは全住民向けの情報が掲載されており、住民は自分に必要な情報を自分で探さなければならない。</p> <p>【サービスとの接点増加による混乱】 様々な先端的サービスが生まれ、自治体DXが進むほど、住民目線では各サービスとの接点が多様化しているように感じ、混乱する可能性がある。</p>	(シ)
<p>3.IoT向け次世代LPWA通信「ZETA」 ①遠隔ワナ監視システム「リモワーナ」 基地局・中継器・ワナ検知センサーを用いたLPWA『ZETA』通信により害獣がワナにかかったことを遠隔通知するシステム。携帯圏外・中山間地でもワナを監視でき、有害鳥獣捕獲業務の効率化に貢献。</p> <p>②リモート水位センシングシステム「スイミール」 水位センサー・冠水検知センサーから得られる情報を『ZETA』の通信を介して ZETADRIVE上に集約し、ZETADRIVEと連携したアプリケーションから遠隔で水位・冠水の情報を見える化するシステム。小規模河川・アンダーパスなど様々な場所に設置可能で遠隔で水位・冠水監視が可能。</p>	(ウ)、(ク)
(3)その他	

※(1)(2)について、複数ある場合は項目毎に対応の記載をお願いします。

※既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、別途そのプロジェクト単独での提案も可能です。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

サービス名/部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
サービス名:ジモノミッケ! TOPPANデジタル株式会社 スマートシティ推進部	天羽涼花	070-7539-5007	suzuka.amaha@toppan.co.jp
サービス名:クラシラセル TOPPANデジタル株式会社 スマートシティ推進部	中里 康二	8046252936	kurashiraseru-unyou@toppan.co.jp
サービス名:ZETA TOPPANデジタル株式会社 スマートシティ推進部	リモワーナ:川口 将和 スイミール:大瀬良 彰恒	03-5840-4600	masakazu.kawaguchi@toppan.co.jp akinobu.oosera@toppan.co.jp

地域の農産物流通のDX化

地域内における需給が可視化され、地産地消を優先した新しい流通網の構築を支援するマッチングプラットフォーム。

現状の課題

取引がアナログで管理されていることが多く
見える化できていない

消費が集中する都市部への流通が優先され、地元の商品が流れにくく、商品価値や価格が固定化されやすい

ありたい姿

生産者と実需者が互いの顔が見え、地域内の需要と供給情報が把握できる

新鮮な商品が買い手に届きやすく、商品価値や価格の設定が柔軟にできる

3つのポイント



1 簡易かつ柔軟な販売・発注

2 マッチング状況をリアルタイムで可視化

3 中間流通の効率化・最適化

事例紹介：会津若松ジモノミッケ！

福島県会津若松市

2022年10月より会津若松市のスマートシティ推進事業に採用

会津若松市における「複数分野データ連携の促進による共助型スマートシティ推進事業」の「食・農業」分野の取り組みとして採用され、2022年10月よりスマートシティのデータ連携基盤である「都市OS」との連携および実運用（運営：(有)会津中央青果）が開始。

導入によって
目指す効果

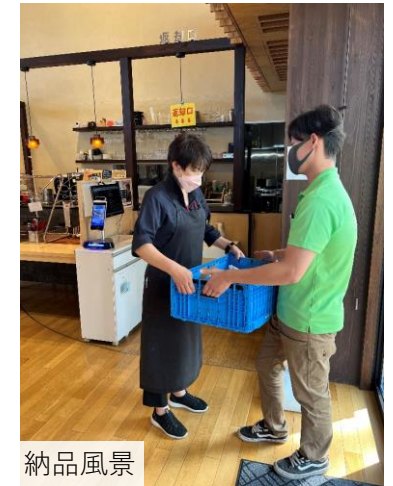
生産者の所得向上

実需者の送客効果

地域経済の循環促進



参加生産者



納品風景